



青森市子育て

サポートセンター

通信

H27. 11. 30 発行 Vol.8

※青森市子育てサポートセンターでは、家庭教育に関する学習機会の提供(青森市内の小中学校で行われている家庭教育学級の運営サポート、子育て講座《きらきら塾》や、発達に心配のあるお子さんに関する講座《うとう塾》の企画運営)、情報収集と発信、また子育て相談の対応等を行っています。



きらきら塾

9/3 「私の子育て、私の家族」



七戸町立 鷹山宇一記念美術館 館長 鷹山ひばりさん

「子どもは天からの預かり者」

みなさんは、そう考えたことがありますか？鷹山ひばりさんのお話から、子育て中の私たちはヒントを沢山いただきました。人間は生まれてくる時には選べない3つのもの「性別・環境・時代」があり、今回は「環境」をテーマにご自身の育った環境、家族との関係を振り返りながら、子育てを通して、子どもに身につけさせたいと思ひ実践された4つの力を話してくださいました。

①寛容な心

すぐキレず、異なる意見も受け入れることができる力。どんな人にも社会の中で役割、存在の意味があるということ。

②選択した責任を持つ力

たとえどのような結果であっても、責任を取ることは人間として大きな誇りであること。

③見返りを求めない無償の愛

阪神淡路大震災の話より、犠牲を無駄にしない活動が、残された者の責任であり、安全な街づくりにつながるということ。

④困難に立ち向かう知的勇氣

人間の真価は困難な時に問われる。自分らしく生きることは平凡なようで難しいこと。

また「人と比べて才能に優劣はつけない・自分の真意をもって生きていく・勇氣を失うことは全てを失う・勇氣は未来を切り開く」ということが大事であると教えていただきました。

豊かな人生とは「感動をいくつ持ったかで決まる。それは、大人も子どもも心を見つめ直す時間が大事であり、学校だけでなく図書館や美術館へ足を運ぶ機会を増やして自分を見つめることで、自分の中から自分をつくり出すことにつながる」というお話が印象に残りました。

「子育てのヒント話をゲットしよう！～親楽～」

8/28 10/5 のきらきら塾は、私たちサポーターが進行役を務め、県教育委員会が作成した「あおもり親楽プログラム」の中から、これまでの子育てを振り返り、10年先の自分や子どもを想像しながら自由にお話を聞き合うワークショップ



和やかな雰囲気で行われた親楽

子どもが開催しました。子どもが生まれた頃の「ただ元気に育ってくれただけで幸せだった」気持ち思い出したり、10年先の成長した子どもや自分の姿を想像して前向きな気持ちになり、そしてこれからの自分について考える機会となりました。

参加者の感想より一部をご紹介します

～「私の子育て、私の家族」より～

- ・子育てのみならず、とても豊かな内容の講演でした。講師のお人柄からにじみ出る、一言ひと言が心に響き感動しました。
- ・お父様の子育て教育がすばらしいと思いました。「人間は生まれてきただけで価値がある」という言葉を忘れずに、自分自身も子育てを見直していきたいです。

～「子育てのヒント話をゲットしよう！～親楽～」より～

- ・他のお母さん方も同じことで悩んでいるんだなあと感じた。
- ・子育て年表を使って、自分のこと・子どものことを考えることが出来てよかったです。
- ・10年後の自分や子どものことを考えると今は何をすべきなのか、自分を省みる事ができました。理想はたくさんありますが、そこに向かって歩いていける目標にもなるのでとても良い気づきになりました。

サポリン



あす

鳴海先生の子育てQ&A



児童心理治療施設「青森おおぞら学園」
施設長 鳴海明敏さん

「チャイルドラインあおもり」で子どもの声を電話で受ける活動もされている鳴海さんは、とてもわかりやすく私たちの疑問や質問に寄り添ってくださいます。

私はこの質問を読んで、以前ある新聞に掲載された「投書」を思い出しました。地方から都会への引っ越しに伴う転校で、転校先の学級に上手く溶け込めず、だんだん暗い表情で帰宅するようになった小学五年生の娘さんとお母さんのやり取りについて書かれていました。

そのお母さんは「娘の一大事とばかり、悩みを追求し、対策を立てアドバイスをした」その口数が少なくなり、学校のことを報告しなくなりました。お母さんが、学校では嫌なことがもうなくなつたのかと聞いてみると、娘さんから、嫌なことがなくなつた訳ではないが「お母

Q 小学校高学年男子の母です。子どもが何事にも無気力な感じに戸惑っています。学校の先生に相談したところ、学校では気になる様子はないとのことですが、何か違和感をおぼえ心配です。



A 以前紹介した「子育て四訓」では、「少年は手を離せ、目を離すな」「青年は目を離せ、こころを離すな」となっています。小学校高学年は、少年から青年の移行期ですから、親としては「子どもとしっかり繋いできた手を離すけど、目は離さない」という姿勢が出来ていて欲しい時期ですが、さて、皆さんは如何でしょうか？

質問の文章からだけでは、「無気力」ということがどんなことなのか、うまく理解できませんでした。友人関係の悩みでしようか、もしかしたらいじめられているのかも知れませんが、いじめで自殺した少年のニュースなどが気になることでしよう。また、何らかの障がいがあるか、精神的な病気の徴候でしょうか。心配し始めると本当にたまらない気持ちになるでしょう。

皆さんに打ち明けると、うるさいから。あんまり言いたくなくなつた。」という答えが返つてきたそうです。

一生懸命に知恵を絞つてアドバイスしていたお母さんは、そこで途方に暮れてしまっています。皆さんならどうされるでしょうか？父親に登場してもらおう、担任の先生に相談する、専門家に相談するなどいろいろな対応策はあると思います。

しかし、このお母さんがとつた行動はそれのどれでもなく、自分がどう対応すればいいのか、どうして欲しいのか、教えてくれるように娘さんに頼んだそうです。すると娘さんから、「お母さんは、話を聞いたら、ただ黙って私を抱きしめて欲しい。」という答えが返つてきました。お母さんは、「それから何回、娘を抱きしめたことでしょうか。何も言わず、一抹の寂しさは胸におさめて、ぎゅつと赤ちゃんのように」抱きしめることを続けたそうです。娘さんは半年ほどで元気に学校へ通い始めるようになって、無事に卒業したということでした。

私は、このようなお母さんの行動が、「手を離すけど、目は離さない」という姿勢の具体例だと思えます。さらにここには、青年期の親に期待される「目を離すけど、こころは離さない」という姿勢につながっていく、大事なものが含まれているように思えます。

「女の子だからこんな展開になつたので、男の子だったらちよつと抵抗があるかもしれませぬね。でも、男の子だって、お母さんにぎゅつて抱っこしてもらつたら嬉しいんですよ。」

初めの一步を踏み出そう！ うとう塾

うとう塾は、発達障がいに関する様々な情報の提供やサポートへの繋がりづくり、そして仲間づくりの場です。ひとりで悩んでいる方が最初の一步を踏み出す機会となることを目指しています。

中学校通級指導教室がスタート ～中学校生活をサポートします～

青森市立浪打中学校 教諭 西岡 澄代さん



②「各教科の補充学習」を通して、勉強は楽しいと感じられるように苦手なところを支援すること。

生徒にはそれぞれ、学び方・分かり方・覚え方・見え方などに違いがあります。そのため、一人ひとりの特性に合ったスタイルで学習を行えるように、パソコンなども使用します。

また、指導の中では、SST(ソーシャルスキルトレーニング)、ストレスマネジメント(ストレスをうまくコントロールする力)、セルフエスティーム(自尊心や自己肯定感を持つこと)なども取り入れています。

このようにして教室では、課題を直すのではなく、「こういう自分になりたい」という生徒本人の意思を確認しながら、自己肯定感を持たせることを大切にしているということでした。

通級指導教室を利用することを心配される親御さんもいると思います。中学校は、集団活動を通して色々な経験ができる貴重な場です。中学校で経験する様々な場面について、お子さん一人一人が、自分に合った対処法を学ぶことが大切です。そして、**子どもの特性に適した学習環境や居場所を最優先に考えてあげることが、親として大事な役目ではないか**と思いました。



気になることを、聞き合いました

◇◆進路等でお悩みの際は◇◆
青森市教育委員会就学指導室にご相談ください。 743-4900(代表)



青森市子育てサポートセンター

青森市子育てサポートセンターの運営は、私たち《青森市家庭教育サポーター連絡会》が、青森市教育委員会から家庭教育支援事業を受託して行っています。「青森市内で子育てをしている保護者のみなさんのお役に立ちたい！」という熱い思いで、活動に取り組んでいます。

TEL・FAX 017-774-6537 〒030-0813 青森市松原1丁目6-3 サンピア(勤労青少年ホーム)2F

Eメール aomorishi-saposen@arion.ocn.ne.jp ブログ <http://blog.goo.ne.jp/saposenrarara>

【開設日時】 毎週火曜日 10:00～13:00 1月末までは木曜日も開設 13:00～16:00

